

あいさつ 共通価値を共有し、産業界の力を防災に役立てる

平田 直（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト総括 /
首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）



主催者を代表してあいさつした防災科学技術研究所首都圏レジリエンスプロジェクト総括/首都圏レジリエンス研究推進センター・センター長の平田直氏は、「観測データを相互利活用するための課題」を副題とする今回のシンポジウムの開幕にあたり、プロジェクト当初から標語として掲げてきたCSV (Creating Shared Value) の概念に触れ、「具体的にどうすれば共通価値を共有することができるか」と問いかけました。

平田氏は「防災上いろいろな情報を共有することは、経済的な利益や社会の恩恵といった、もう少し実利的な面で私たちの役に立つ」との考え方を示し、同プロジェクトを通じて「産官民が連携して防災上必要な社会のニーズ（必要性）を示し、それを学（アカデミア）の研究シーズ（種）と融合させることによって、新しい価値を創造したい」と述べました。また、この日のシンポジウムで「具体的にどうすれば産業界の力を防災に役立てられるか」という、より踏み込んだ議論が行われることに期待を示しました。

そのほか、平田氏は、新型コロナウイルス感染拡大への対応として導入されたオンライン方式でのシンポジウム開催について、「時空を拡大した遠隔のコミュニケーション手法」であり「災害時にも応用できる貴重な練習の機会」でもあると評価しました。

